

第 11 回関東大学春季交流大会 実施要項

1. 主催 関東ラグビーフットボール協会
2. 目的 大学ラグビーの競技力向上を目的に、春・秋 2 シーズン制の公式戦にすることで、年間を通じた強化を目指す。
また関東大学対抗戦とリーグ戦の交流や、招待試合や各地フェスティバルなどに組み込むことで、学生にラグビー精神を周知するとともに地域普及をも図る。

3. 大会実施日

<リーグ戦> 令和 4 年 4 月 3 日(日) ～6 月 26 日(日)

4. 出場チーム 対抗戦 A、リーグ戦 1 部、対抗戦 B 1 位、リーグ戦 2 部 1 位 計 18 チーム
A グループ：対抗戦 A・リーグ戦 1 部 前年度秋季戦の各 1～3 位
B グループ：対抗戦 A・リーグ戦 1 部 前年度秋季戦の各 4～6 位
C グループ：対抗戦 A・リーグ戦 1 部 各 7・8 位扱い、対抗戦 B・リーグ戦 2 部各 1 位扱い
※秋季リーグの結果、入替が生じた場合は、その結果を反映する。

5. 参加資格

- ① チームの参加選手、スタッフは、原則として大会が始まる以前に所属チームを通じ、当該年度 **Rugby Family** にチーム登録、個人登録をしていること。追加登録がある場合は、事前に協会に報告し登録を行うこと。
- ② 4 年制大学の学部在籍する正規の学生及び大学院生であること。但し、研究生、科目等履修生、聴講生、研修生は含まれない。
- ③ 外国籍の選手は、正規の学生として入学し、その後、継続的に日本に居住し、部員として練習、その他の活動を共にしていること。
なお、本大会においては、(公財)日本ラグビーフットボール協会「チーム登録等に関する規程」第 4 章外国人選手 第 14 条の規定に準ずる。
- ④ 外国籍の選手は、(公財)日本ラグビーフットボール協会「チーム登録等に関する規程」第 4 章外国人選手 第 13 条に記載の外国人選手の登録手続きが完了し、当該年度 **Rugby Family** 個人登録をしていること。
- ⑤ (公財)日本ラグビーフットボール協会規程選手役員に違反するチーム及び選手の参加は認めない。
- ⑥ 参加選手は所属チームにおいて傷害保険に加入していること。
- ⑦ 参加資格に疑義のある場合は関東ラグビーフットボール協会が裁定する。
- ⑧ 本大会におけるラグビーファミリーへの登録締切は、4 月 10 日までとする。

※3 月 1 日～3 日 (の期間) は、システムメンテナンスの為、登録に関する作業が一切できません。
3 月 8 日 11:00～登録開始となるので、かならず、チーム登録・個人登録手続きを行い、登録費支払いまで完了する事。

6. 競技方法

<対戦方式>

対抗戦3校・リーグ戦3校の計6校での総当たり戦を行う。

Aグループ							Bグループ							Cグループ						
A	帝京	明治	早稲田	東海	日本	大東文化	B	慶應義塾	日本体育	筑波	関東学院	流通経済	法政	C	青山学院	立教	成蹊	立正	東洋	中央
帝京	●						慶應義塾	●						青山学院	●					
明治		●					日本体育		●					立教		●				
早稲田			●				筑波			●				成蹊			●			
東海				●			関東学院				●			立正				●		
日本					●		流通経済					●		東洋					●	
大東文化						●	法政						●	中央						●

<順位決定>

順位決定方法は勝ち点制度を用いて決定する。

順位決定方法について

①勝ち点の多い順に順位決定を行う。

勝ち：4、引分：2、負け：0

ボーナス点として以下の勝ち点を与える。

- 負けても7点差以内ならば、勝ち点1を追加。
- 3トライ差以上での勝ちならば、勝ち点1を追加。

※不戦勝・不戦敗の試合があっても、実施された試合のボーナスポイントは消滅しない。

※試合中に、怪我その他の理由によりプレイヤーが退場し、チームが試合を継続する事が難しいと判断した場合、試合はその時点で中止し、当該チームは負けとする。

試合が中止となった場合

- ① 双方のチームの責に帰すべき事由によらない不可抗力により試合中止になった場合、双方のチームに2点を付与する。得失点差は0-0 (0T0G) として扱う。
- ② 一方のチームの責に帰すべき事由により、試合中止になった場合、その帰責性のあるチームに勝ち点は付与されず、対戦チームに5点を付与する。得失点は21-0 (3T3G) として扱う
- ③ 双方のチームの責に帰すべき事由により、試合中止になった場合、双方のチームに勝ち点は付与されない。得失点差は0-0 (0T0G) として扱う。

○チームの責に帰すべき事由

チームの責に帰すべき事由とは、試合登録人数を満たせなかった場合(新型コロナウイルス感染症の影響を含む)を示す。具体例としては、部内外関わらず、不祥事・感染症を起因とする部活動停止等の影響により、大学側から公式戦辞退判断が出た場合や怪我人が多発

し、試合に臨める状態ではなく、大学側から公式戦辞退判断が出た場合が挙げられる。

双方のチームの責に帰すべき事由によらない不可抗力とは、悪天候・地震等の天災地変、公的機関からの中止勧告、公共交通機関不通等を示す。

全試合終了時点で、最も勝ち点の多いチームを 1 位とする。不戦勝・不戦敗・不成立の勝ち点を含む。

②全試合終了時点で勝ち点と同じ場合、次の各号の順序により順位を決定する。

- (1) 全試合の勝利数の多いチームから上位とする。
- (2) 当該チーム同士の試合で、勝ち点の多いチームを上位とする。
- (3) 当該チーム同士の試合で得失点差の多いチームを上位とする。

但し、当該チームが 2 チーム間の比較であった場合、前項 (2) にて比較済のため、(4) の項目へ進むこととする。(3) で得失点差を比較する段階で当該チーム同士の試合で、不戦敗したチームが存在した場合、そのチームは比較対象から除外され、当該チームの中で最下位となる。

- (4) 全試合の総得失点差の多いチームを上位とする。

(4) で得失点差を比較する段階で不戦敗したチームが存在した場合、そのチームは比較対象から、除外され、当該チームの中で最下位となる。不戦敗したチームが 2 チーム以上存在した場合は、その他の当該チームより下位になるが、不戦敗したチーム同士の同じチームと対戦した試合で得失点差の多いチームから上位とする。

- (5) 全試合で総トライ数の多いチームを上位とする。
- (6) 全試合でトライ後のゴール数の多いチームを上位とする。
- (7) 当該チームで抽選会を実施する

※新型コロナウイルス感染症の影響により、予測がつかない事態が起きた場合、関東ラグビーフットボール協会大学委員会にて協議、判断する。

◆試合の延期・不可抗力による代替日の設定について

○試合の延期について

試合の延期は、不可抗力による代替日の設定を除き、春季大会開幕日以降一切行わない。開幕日は春季大会の中で最も早い試合の 48 時間前とする。

○不可抗力による代替日の設定について

不可抗力によって実施できない場合は、一旦中止として扱う。

中止となった試合について、両チームの調整で代替日が設定できた場合は、その試合を春季大会として行う。代替日を設定する場合は、下記の対応とする。

- 本来の実施日の翌日 17:00 までに代替日の日程を関東ラグビーフットボール協会へ連絡すること。
- 代替日は、土曜日、日曜日、祝日で設定すること。
- 代替日の期間は、本来の実施日から 6 月 26 日までとする。

上記で調整できない場合は、そのまま中止となり、順位決定方法に基づき、順位を決定する。

◆試合の中止判断

○チーム内、大学内で新型コロナウイルス感染者・感染疑いの者が発生した等、新型コロナウイルス感染症の影響を起因とした部活動停止、長期間部活動制限等で試合に臨める状態ではない場合等

○チーム内、大学内で新型コロナウイルス感染症の影響を起因としたものではないものの、部活動停止、

長期間部活動制限等で試合に臨める状態ではない場合等

大学の判断を優先とし、出場できない旨を記載した公文書（学長・部長印等）を作成、関東ラグビーフットボール協会に提出する

◆試合の登録人数

試合の登録人数はフロントローのファーストインジャリーに対応できることを前提に 22 名（フロントロー5 人以上の登録）を満たしたうえで、最大 26 名まで登録することができる。よって、本大会の最低登録人数は 22 名以上且つフロントロー5 人以上の登録とする。

7. 競技規則

①2021 年度WR 制定の競技規則による。

②試合時間は 40 分ハーフとし、ハーフタイムは 12 分以内とする。

③ペナルティトライ（PT）は、7 点としコンバージョンキックは実施しない。

また、トライ 1・ゴール 1 扱いとする。

④試合中にアンコンテストスクラムに変わった場合でも、試合は継続される。

その原因を作った側のチームの得点は記録される。勝敗には影響しない。

⑤競技区域内にいるプレーヤーの内、外国籍選手は 3 名までとする。但しリザーブ選手に人数制限は設けない。

8. 表彰

① Aグループ・Bグループ・Cグループの優勝チーム

②ベストマナー賞：試合内外の態度、応援マナー、競技規則遵守の観点より別紙書式にて監督推薦

9. 罰則

<カードの適用について>

① 累積は、前年 9 月より持ち越す。但し高校時の分は含まない。

② 大会期間中、一時的退出(イエローカード)の累積 3 回目の宣告をされた場合、同一試合 2 回目でない限りその時点で退場とはならないが、原則として次の 1 試合には出場できない。当該試合終了後、関東協会規律委員会にて状況確認を行い裁定する。

③ 退場を命じられたプレーヤーについては、原則として次の 1 試合には出場できない。当該試合終了後、

関東協会規律委員会にて状況確認を行い正式に裁定する。

<カード適用時の外国籍選手の起用について>

外国籍選手にカードが適用された場合、外国籍枠は以下の通りとする。

①「退場」となった場合：退場となったプレーヤーを除く、残ったプレーヤーの人数の内、外国籍選手は 3 名まで。

（例：外国籍選手が退場になり、プレーヤーの人数が 14 名となった場合、その内 1 名を外国籍選手と入れ替えて外国籍選手の出場人数を 3 名とすることは可能）

②「一時的退出（シンビン）」となった場合：外国籍選手が一時的退出となった場合、一時的退出

の時間中も、その外国籍選手は 15 名の中に含まれるとみなす。実際にプレーしている人数が 14 名でも、外国籍選手は 3 名と数えるので、14 名の中で更に外国籍選手を 1 名加えることは認められない。

10. 運営に関する諸事項

本大会は、『第 11 回関東大学春季交流大会新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン』を基に会場図を作成し、新型コロナウイルス感染防止対策に則り、試合を実施する。

- ① 本大会は会場ですぐ受入可能な場合は『有観客試合』にて実施する。
- ② レフリーは関東協会が指名、タッチジャッジ・第三 AR（交代替理者）・試合記録は両チームで担当すること。
- ③ マッチコミッショナー（会場によりサブマッチコミッショナー）を関東協会より派遣する。
- ④ マッチドクターはチームドクターに依頼する。
- ⑤ ホストチームはテクニカルゾーンと大会本部を設置する。
- ⑥ ホストチームを対戦カード、左側に記載し、グラウンド設営等を担当する。
- ⑦ キックオフ 1 時間前にプレマッチミーティングを試合会場内にて開催する。参加者はマッチコミッショナー、レフリー、監督(または準ずる者)、チームメディカルスタッフ、主務とする。
- ⑧ 出場メンバーを、キックオフ 48 時間前までに関東協会（招待試合の際は試合開催地の当該協会）と対戦チームに送付すること。
 - (ア) 48 時間前に登録した出場メンバーの変更については、先発登録メンバーとリザーブ登録メンバー間での入替も含め、原則認めない。
 - (イ) 48 時間前登録以降に選手の負傷などやむを得ない理由で、登録メンバーの入替を行う場合は、相手チームに連絡すること、関東協会事務局へ連絡すること。
 - (ウ) プレマッチミーティング終了以降、試合開始までに、ウォーミングアップ中の負傷などやむを得ない事由により登録メンバーの入替を行う場合は、マッチコミッショナー・マッチオフィシャルの確認を得て、相手チームに伝える事。上記、いずれの変更が生じる場合、変更が必要となった時点で、関東協会事務局に連絡する事。
- ⑨ 当番チームは、試合後 30 分を目途に事前に送られた所定の記録用紙を関東協会まで FAX すること。
- ⑩ 原則としてチームのファーストジャージを着用し、同色または類似して見分けにくい場合は、双方の話し合いによって決める。ファーストジャージに関しては、大会開幕前に行うジャージ登録にて確認する。
- ⑪ アフターマッチファンクションは本大会では実施しない。
- ⑫ 試合球は、スズキスポーツ・セプターより提供されるボールをチームへ支給。
ボールは各チーム同数支給する為、対戦カード右側のチームが試合球を持参する場合がある。

<テクニカルゾーンについて>

- ① テクニカルゾーンは、ハーフウェイラインより左右対称となる位置に、タッチラインから 2m 以上離れ、かつハーフウェイラインから 5m の地点から始まるのが望ましいが、各会場の状況に応じてイコールコンディションになるよう設置し、フィジカルディスタンスを保てる距離を確保すること（できるだけ 2m、最低限 1m 確保されていることが望ましい。確保できない場合、イス 1 席分などの距離をとること）

- ② テクニカルゾーン内に入れるのはチームドクター、セーフティーアシスタントなど
メディカルスタッフ 2 名以内と給水係 5 名以内とする。テクニカルゾーンに入る者は関東協会から貸し出されているメディカル、ウォーターのビブスを着用すること。
上記スタッフは通信機を付けることはできるが、戦術上の指示・連絡を行ってはならない。
- ③ メディカルスタッフは、タッチライン沿いで待機することが出来るが同一チームのスタッフが同じサイドにいてはならない。
- ④ 給水係はキックティー係を兼任し、テクニカルゾーン内で待機しなければならない。ペナルティーの際は給水できない。(ペナルティーキックの間は給水行為を禁止とするが、キックティーを運ぶ給水担当者からキッカーへの給水対応は可能とする。但し、持ち込み可能なボトルは 1 本のみとし、また、ディフェンス側の給水行為は認めない。)
- ⑤ 監督、及びヘッドコーチがメディカルスタッフ、及び給水係としてテクニカルゾーンへ入ることはできない。(コーチは可能)。
- ⑥ テクニカルゾーン内での治療行為はできない。
- ⑦ テクニカルゾーンの運用に関して違反行為がある場合、マッチオフィシャルやマッチコミッショナーから注意を与えられることがあり、程度によっては退場させられることもある。

<地震・雷・台風等の荒天時における試合成立条件>

○試合日以前 (KO 前まで) の試合可否判断について

地震・雷・台風等の荒天の影響により、チーム・スタッフ・マッチオフィシャル等、試合に関わる全ての方々の安全が保障されない場合、主催者側から中止または延期を要請する場合がある。

○試合中の試合可否判断について

地震・雷・台風等の荒天の影響により、試合中に実施不能となった場合、当日現場にいるマッチコミッショナー、マッチオフィシャル、両チーム監督で取り扱いを決定し、関東協会事務局、大学委員会に報告をする。また中断した場合は以下の基準で対応する。

①前半が終了していれば成立とみなし、中断時の得点を結果とする。

また、ボーナス点付与の対象の試合とする。

②前半途中で中断した場合、試合が再開できるかどうかを、

マッチコミッショナーと両チーム、マッチオフィシャルで話し合い、検討する。

その際に以下に準じて検討すること。

- 試合が途中で中断した場合、再開の目処は遅くとも試合中断後 60 分後を目安とする。
また、その判断は試合中断後 30 分以内を目安とする。
- 試合再開時刻を決定する場合、チームのウォーミングアップ時間を十分に配慮するものとする。

再開が難しいと判断した場合に、後日の再試合を検討する。その後、後日の再試合が行える場合、中断時点の得点は考慮されず、改めて行う。

再試合の実施が不可能の場合は、前半途中で中断した試合を成立とし、ボーナス点付与の対象の試合とする。